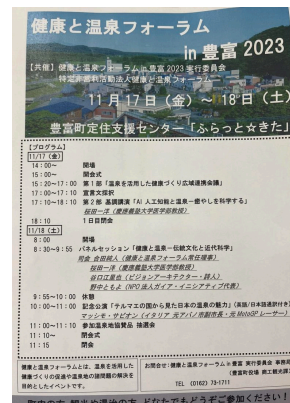


開催実施報告書

■ 健康と温泉フォーラムin豊富2023

- ・会期 令和5年11月17日(金)～18日(土)2日間
- ・会場 豊富町定住支援センター・ホテル豊富
- ・関連事業 温泉を活用した健康づくり広域連携会議
- ・参加者数 2日間とも約60人
- ・後援団体 添付記念誌表2の最下段に掲載通り
- ・プログラム 添付記念誌表4の通り
- ・テーマ・講師他コンテンツ企画 添付記念誌表2の通り



■ 催事記録・報告(要約)

□初日(令和5年11月17日(金))

○開会式(1500~1520)

健康と温泉フォーラムin豊富2023の開会式は定刻1500から、豊富町の河田誠一町長の歓迎挨拶で始まり、特定非営利活動法人健康と温泉フォーラムの三友紀男会長の主催者挨拶と続き、最後に、後援諸団体を代表して、環境省自然環境局の白石隆夫局長(代読、同局温泉地保護利用促進推進室坂口隆室長)のご挨拶で終了しました。

○第一部(1520~1700)「温泉を活用した健康づくり広域連携会議」(議長 三友紀男)

(背景)

温泉を活用した健康づくり広域連携会議は、2019年にそれまで約10年間日本で有数の共通する泉質(放射能泉)を持つ温泉自治体*が中心となってそれぞれの温泉地でシリーズ開催し、その多様な課題を共有し、問題の解決の為、それぞれの特徴を補完しあい、連携活動を続けてきました。「ラジウム・ラドン温泉広域連携会議」を発展的に解消し、広く、温泉を活用した健康づくりを活発に推進する全国の温泉地自治体や、温泉関連の全国組織などをその新たなメンバーとして加え、産官学からなる健康と温泉の総合プラットフォームを標榜して、設立した組織です。コロナ禍の為、三朝町での開催以来4年ぶりの開催となる今回、新メンバーも加わり新たな広域連携としてコロナ禍後の立て直しのスタートとなる大切な会議となりました。

*鳥取県三朝町、鳥取県倉吉市、新潟県阿賀野市、秋田県仙北市、山梨県北杜市、



まず健康と温泉フォーラム常任理事合田純人の司会・コーディネートで、最初に、健康と温泉フォーラムの三友紀男会長が議長に選出され、それぞれの組織の報告が始まりました。(各報告の内容は記念誌に掲載)。厚生労働省認定の温泉利用型健康増進施設としてその医療費控除制度の活用が全国一位として、注目される地元豊富町からその取組の現状を行政、医療、湯治と3つのカテゴリー別に報告いただきました。

1. 「豊富町の取り組み」(行政) 豊富町商工観光課長山内英夫
2. 「豊富町国保診療所の取り組み」 豊富町国民健康保健診療所所長柴崎嘉
3. 「地域の温泉行政と保健、福祉と湯治・健康づくり」 豊富町営ふれあいセンター看護師



続いて各連携自治体、組織からの報告は下記の通りでした。

4. 秋田県仙北市（市長 田口知明）
5. 鳥取県三朝町（町長 松浦幸弘）
6. 鳥取県倉吉市（広田一恭市長代理、副市長 加藤礼二）
7. 熊本県菊池市（江頭実市長代理、同商工観光課課長補佐 上野重智）
8. 山口県長門市（江原達也市長代理、同経済観光部長 堀俊洋）
9. 兵庫県新温泉町（西村銀三町長代理、同商工観光課長 福井崇宏）
10. 一般財団法人日本健康開発財団（理事長 横山弘）

続いて本会議の総括を「温泉を活用した健康づくり広域連携会議豊富宣言」として、発表者全員が舞台に中央に整列して、中央に三友議長よりその宣言文を発表いただきました。記念撮影を終え、第一部は定刻どおり終了いたしました。



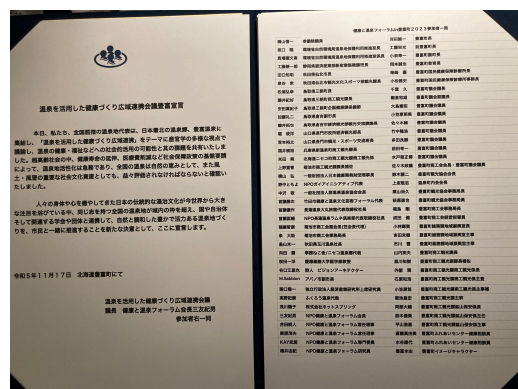
温泉を活用した健康づくり広域連携会議豊富宣言

本日、私たち、全国屈指の温泉地代表は、日本最北の温泉郷、豊富温泉に集結し、「温泉を活用した健康づくり広域連携」をテーマに産官学の多様な視点で議論し、温泉の健康・福祉などへの社会的活用の可能性と其の課題を共有いたしました。超高齢社会の中、健康寿命の延伸、医療費削減など社会保障政策の基盤要件によって、温泉地活性化は急務であり、全国の温泉は自然の恵みとして、また風土風習の重要な社会文化資産としても、益々評価されなければならないと確認いたしました。

人々の身体や心を癒やしてきた日本の伝統的な湯治文化が今世界から大きな注目を浴びている中、同じ志を持つ全国の温泉地が域内の枠を超え、国や自治体そして関連する学会や団体と連携して、自然と調和した豊かで活力ある温泉地づくりを、市民と一緒に推進することを新たな決意として、ここに宣言します。

令和5年11月17日 北海道豊富町にて

温泉を活用した健康づくり広域連携会議
議長 健康と温泉フォーラム会長 三友紀男
参加者右一同





○第二部（1710~1800）基調講演「AI（人口知能）と温泉」

第一部に続き慶応義塾大学医学部の桜田一洋教授による基調講演があり、1800 定刻に一日目は閉会となりました。（講演内容は記念誌に抄録掲載）



○交流レセプション（1900~2100）

1900より場所をホテル豊富の宴会場に移し、交流レセプションが開催されました。開会挨拶を豊富町の河田誠一町長、来賓挨拶を参議院の横山信一議員、歓迎挨拶を健康と温泉フォーラムin豊富2023実行委員会の上坂敬志会長に続き、乾杯挨拶を豊富町議会の鎌倉和雄副議長の発声で交流会は始まりました。地元及び全国各地から参集した70名を超える参加者は、地元料理をいただきながら、全国の温泉地から持ち込まれた地酒自慢や、豊富町キャラクターの温泉むすめの紹介や関連グッズ、温泉商品の抽選会など盛り沢山の趣向で大いに盛り上がりました。そして、中締めとして、今回の準備、運営を担当した、豊富町職員を紹介し、参加者全員からの拍手による感謝を伝えました、そして、最後に健康と温泉フォーラム理事、元竹田市長の首藤勝次氏の閉会挨拶と万歳三唱は予定時間を過ぎましたが、余韻を残しながらの閉会となりました。



□二日目（令和5年11月18日（土））

○第三部（0830~1000）パネルセッション「健康と温泉—伝統文化と近代科学」



健康と温泉フォーラムin豊富2023の第三部は、健康と温泉フォーラムの合田純人常任理事の司会で、講師に第二部の基調講演の講師で慶応義塾大学医学部の桜田一洋教授、詩人で、ヴィジョンアーキテクターの谷口江里也氏、特定非営利活動法人ガイアイニシアティブで、元NHKニュースキャスターの野中ともよ代表理事の3人をお迎えし、活発な議論を展開しました。伝統文化としての温泉を生命誕生の起源まで遡り、その関連する原初からの癒やしの本質（谷口）や、女性の生理と地球と月の深い関係性とその条理、地球の健康と人間の健康の関連性（野中）、そして同時に現代の情報社会における虚実の仮想空間と言葉の信頼性へ構造的な問題と絶対的な安心や癒やしを提供する温泉の役割（桜田）などが論じられた。主な論点や各パネラーの視点などは記念誌の抄録に記載されている。

○特別講演「テルマエの国からみた日本の温泉の魅力」（1000~1040）

特別講演は定刻1000から、イタリアのベネト州の世界的な観光都市遺産ヴェネチアから近く、国際温泉地として知られるイタリアを代表するアバノテルメ（温泉）の元副市長で同アバ





ノ・モンテグロット温泉ホテル協会(モンテグロットは隣接する温泉地)の元会長を歴任した、マッシモ・サビオン氏を特別に講師に迎え、欧州の温泉大国イタリアからみた日本温泉の魅力を豊富な滞日経験から語っていただいた。英語から日本語への通訳は国立奈良女子大学講師で日本温泉地域学会幹事、健康と温泉フォーラム研究員の樽井由紀女史が担当した。

特にマッシモ・サビオン氏が強調したのは、日本人の文化的特性と密接に結びついた伝統的な日本の温泉文化で、記念誌には次のように収録されている「すこし、乱暴な比較ですが、西洋音楽と邦楽を比べ、繊細なピアノのかるやかな連続する旋律も素晴らしいですが、日本はむしろ音と音、まさに間(マ)をつなげる沈黙や、日本語の間、言葉と言葉の間、のりしろのような沈黙の空間、それが日本の伝統文化で、そのエッセンスがまさに日本の温泉文化だと思っています。」そして最後に、「COVID-19の世界的パンデミックの反動で温泉のグローバル化が加速されるでしょう。そして、西洋的な考え方では取りこぼされてきた、ポストウェルネスとしての心の健康づくり。傷んだ心のピットイン、その治癒の場として日本の温泉がこれから、益々注目される時代がくると確信しています。」と特別講演を締めくくりました。私達日本人があまりにも身近にあるがため見落とされきた視点を指摘され、改めて温泉と日本人の深い関係性に気付かされた短いが中身の濃い講演でした。



○温泉地協賛品抽選会 (1040~1115)

参加温泉地からご提供いただいた品物*の抽選会を行った。司会は健康と温泉フォーラムの栗原茂夫常任理事、アシスタントは同フォーラムのKAY武居専門委員で、抽選者は豊富町河田町長が担当した。



* 北海道豊富町 (ペア宿泊券)、秋田県仙北市 (お土産セット)、同玉川温泉 (ペア宿泊券2組、お土産2セット、きりたんぼ鍋セット)、熊本県菊池市 (アースメロン)、同商工会 (お菓子詰め合わせ5セット) 山口県長門市 (高級地酒ほればれ) 鳥取県三朝町 (お土産詰め合わせ5セット)

○閉会式 (1115~1130)

2日間に渡って開催された健康と温泉フォーラムin豊富2023は、最後に健康と温泉フォーラム理事で元群馬県草津町長の中澤敬氏によって閉会の挨拶となり、無事定刻の1130分にすべてのプログラムが終了いたしました。

■関連付帯資料

1. 健康と温泉フォーラムin豊富2023記念誌
2. 健康と温泉フォーラムin豊富2023参加者リスト (地元関係除く)
3. 報道記事



○付帯資料-2 健康と温泉フォーラムin豊富2023参加者リスト（地元除く）

健康と温泉フォーラムin豊富町2023参加者一同

横山信一	参議院議員	河田誠一	豊富町長
坂口 隆	環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長	工藤栄光	前豊富町長
馬場園文香	環境省自然環境局温泉地保護利用推進室係長	小泉幸一	豊富町副町長
工藤兼一郎	静岡県経済産業部新産業集積課班長	岡本誠也	豊富町教育長
田口知明	秋田県仙北市長	柴崎 嘉	豊富町国民健康保険診療所長
泉谷 衆	秋田県仙北市観光文化スポーツ部観光課長	小松雅史	豊富町国民健康保険診療所事務長
松浦弘幸	鳥取県三朝町長	千葉 久	豊富町議会議長
藤井紀好	鳥取県三朝町商工観光課長	鎌倉和雄	豊富町議会副議長
安田真紀子	鳥取県三朝町企画健康課保健師	大島憲昭	豊富町議会議員
加藤礼二	鳥取県倉吉副市長	小笠原照美	豊富町議会議員
藤井拓也	鳥取県倉吉市経済観光部観光交流課課長	佐々木誠	豊富町議会議員
堀 俊洋	山口県長門市役所経済観光部長	竹中隆浩	豊富町議会議員
宮本裕之	山口県長門市観光・スポーツ交流班長	多田良勝	豊富町議会議員
福井崇裕	兵庫県新温泉町商工観光課長	前田考一	豊富町議会議員
米田 舜	北海道ニセコ町商工観光課商工観光係	水戸部正博	豊富町議会議員
上野重智	菊池市商工観光課課長補佐	佐々木政義	豊富町商工会会長・豊富町議会議員
横山 弘	一般財団法人日本健康開発財団理事長	鈴木請二	豊富町観光協会会長
野中ともよ	NPOガイアイニシアティブ代表	上坂敬志	温泉町内会会長
中沢 敬	一般社団法人群馬県温泉協会会長	栗山尚久	豊富町観光協会事務局長
首藤勝次	竹田市健康と温泉文化芸術フォーラム代表	萩原直也	豊富町観光協会事務局長
首藤優作	長湯温泉大丸旅館代表取締役社長	福島 剛	豊富町商工会事務局長
首藤匡輔	NPO長湯温泉ラムネ倶楽部代表取締役社長	成田 健	豊富町商工会経営指導員
稲継智康	菊池市商工会副会長(笠会長代理)	小林輝貴	豊富町総務課地域振興室長
泉 大助	菊池市商工会事務局長	吉田未樹	豊富町総務課地域振興室主事
畠山米一	秋田県玉川温泉社長	市川 雪	豊富町総務課地域振興室主事
向田 薫	事務ねご舎/ニセコ温泉郷代表	山内英夫	豊富町商工観光課長
桜田一洋	慶應義塾大学医学部教授	黒川知樹	豊富町商工観光課課長補佐
谷口江里也	詩人 ビジョンアーキテクター	外館 潤	豊富町商工観光課商工観光係長
M.Sabbion	アバノ市副市長	石原和浩	豊富町商工観光課商工観光係主査
関口陽一	独立行政法人経済産業研究所上席研究員	小笠原悠	豊富町商工観光課商工観光係主事補
高野紀康	ふくろう温泉代表	菊池昌宏	豊富町商工観光課主幹
浅川陽子	株式会社ホットスプリング	阿部大輔	豊富町商工観光課鉦山保安係長
三友紀男	NPO健康と温泉フォーラム会長	鈴木優貴	豊富町商工観光課鉦山保安係主任
合田純人	NPO健康と温泉フォーラム常任理事	平山浩基	豊富町商工観光課鉦山保安係主事
栗原茂夫	NPO健康と温泉フォーラム常任理事	斎藤真由美	豊富町ふれあいセンター健康相談員
KAY武居	NPO健康と温泉フォーラム専門委員	水谷康代	豊富町ふれあいセンター健康相談員
樽井由紀	NPO健康と温泉フォーラム研究員	豊富水由	豊富町イメージキャラクター

温泉を活用した健康増進考える 豊富でフォーラム 道 内外の専門家ら参加、講演会も

北海道新聞11/17(金)20:34



豊富温泉の効能などを説明する豊富町商工観光課の山内英夫課長日間の日程で町定住支援センター（東1の6）で始まった。全国の温泉地の事例発表や専門家の講演会が行われ、初日は町内外の関係者や町民ら計60人が参加した。...

